一宮西高新聞

発行所
愛知県立一宮西高新聞部
一宮市萩原町串作河田1
電話一宮（68）1191
株式会社 大東社
電話一宮（62）1168

待ち遠しいなお弁当タイム

高校生活に花を添える「弁当」。弁当を楽しみに学校へ来ている、という人も多いのではないでしょうか。今回はそんな弁当を奥深くまで追究し、特集します。各学年2クラスずつの生徒に協力してもらったアンケートから、西高生の弁当事情が明らかになる…かも。

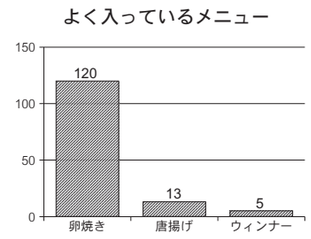
人気メニューは唐揚げ

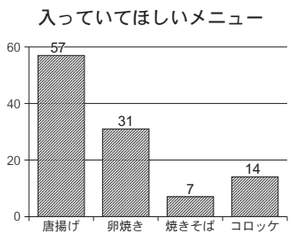
アンケート実施日の昼食は、ほとんどの人（96％）が手作りのお弁当を食べていました。購買を利用する人も多く見られますが、それとは別で、家からお弁当も持ってきているようです。

入っていてほしいメニューの第1位は唐揚げ。つづいて卵焼き、コロッケ、となりました。食べ盛りの高校生ということで、揚げ物などのボリュームのあるメニューに人気が集まりました。

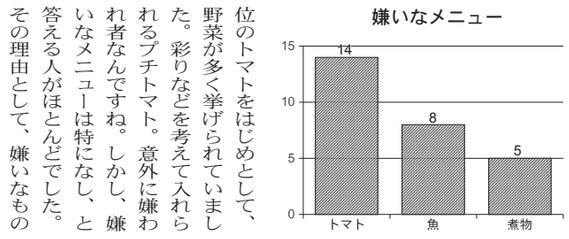
また、よく入っているメニューとしては、卵焼きがダントツの第1位。手軽で簡単に作ることができ、また、色合いもよいことから、多くの家庭で弁当に入れられているようです。

嫌いなメニューでは、第1位のトマトをはじめとして、野菜が多く挙げられていました。彩りなどを考えて入れられるプチトマト。意外に嫌われ者なんですね。しかし、嫌いなメニューは特になし、と答える人がほとんどでした。その理由として、嫌いなものがあまりない、もしくは嫌いなものは弁当に入れてもらわない、という2つが考えられると思います。



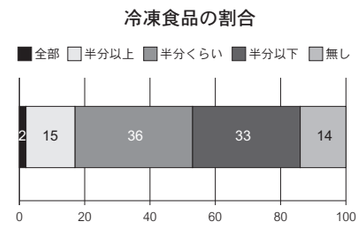


楽しいランチタイムは机をくってけて



冷凍食品は母の味方！

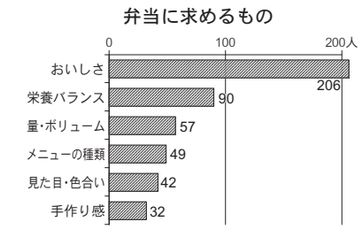
最近、冷凍食品もさまざまな種類のものが売られています。また、その味や質もかなり高いものとなっています。そんな冷凍食品は、忙しい朝に弁当を作るお母さん方にとって、強い味方となっているようです。そんな中、14％の人は、弁当に冷凍食品が入っていないと答えました（すごい！）。



何といっても おいしさ一番☆

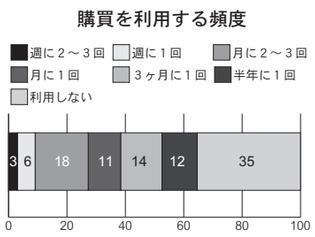
弁当に求めるものは何か、と尋ねたところ「おいしさ」と答える人が最も多くいました。続いて「栄養のバランス」でした。

逆に、「見た目・色合い」、「手作り感」についてはあまり気にしていないようです。やはり、味が大切ということですね。



購買の利用率は低め!?

昼放課になると、購買を利用する人で1F昇降口は賑わっています。しかし、意外にも33％の人が購買を「利用しない」と答えました。利用するかどうかは、人によって差があるようです。また、購買に入ってほしい商品は何か尋ねました。お菓子やエクレアなどのスイーツ類、アイスクリーム、肉まんなどが多く挙げられました。パンやおにぎりの種類を増やしてほしいという声が多くありました。今回のアンケートが反映されるかどうかは分かりませんが…。



給食？or弁当？ あなたはどっち派？

今回のアンケートでは、給食派68％、弁当派32％で、弁当より給食の方がよい、という意見が多くなりました。給食には、「温かいものが食べられる」、「毎日違ったメニューである」、「栄養バランスがきちんと考えられている」というメリットがあり、「準備がめんどくさい」、「嫌いなものが出ることがある」というデメリットもあります。

また、弁当においてもメリット・デメリットがあります。メリットは、「量が調節できる」、「食べ慣れた味である」というのがあるのに対して、「持ってくるのがめんどくさい」、「作るのが大変である」、「麺・汁物があまり食べられない」というデメリットもあります。

これらを踏まえて考えると、メリットが多いことから、やはり給食の方がよいのかなと思います。給食派の意見では、「弁当はお母さんが大変だから」、「迷惑がかかるから」などという、母親思いの西高生が多くいました。

女子の弁当はかわいい

おいしそうな手作り弁当

あなたにとってお弁当とは？

「わたしにとって弁当とは○○である」この文の○○をみなさんに埋めてもらいました。答えはだいたい3通りに分かれました。

1つ目は「昼食」、「弁当」、「食欲を満たすもの」などという答えです。これが最も多くありました。

次は「楽しみ」、「学校に来る目的」などという答えでした。中には、学校生活そのものであるという人も少なくはなく、それほど弁当は学校生活にはなくてはならないものとなっているようです。

そして、もう1つは「母との絆」「友達とのコミュニケーションツール」、「会話のおやつ」などという、家族や友達と自分とをつなぐものであると考える答えです。

たしかに、そうだと思います。弁当はお母さんの愛情が詰まったものであり、それを日々感じることができます。そして、私たちはお母さんに対して感謝の気持ちを持ちます。このようにして、母と子の間に絆が生まれるのだと思います。

また、弁当を食べながら友達と話している時間は、みなさんにとって、とても楽しい時間だと思います。そのような気持ちから、「会話のおやつ」などという答えがでたのだと思います。

この質問に正解はないので、答えは人それぞれ違うと思います。しかし、今回を通して弁当とは「ただの食事」というだけではなく、もっと深い意味があるということが少しわかりました。みなさんも、自分なりの『弁当の意味』を考えてみてください。

（伊藤愛梨）

論説 日本語の誤用に心用心

ある家電量販店で買い物をしていたときに、私が探していた目的の商品が見つからず、近くにいた店員の人にその商品を探してもらった。商品が見つかったとき、店員の人が「この商品で大丈夫ですか」と私に確認をした。その時、私は違和感を覚えた。細かいことであるが、「この商品でよろしいですか」と言うべきではなかったのだろうか、と私は思った。

皆さんもこのような、間違った使い方、間違っていないのだろうけれども、何か違和感を覚えるような日本語を聞いたことがあるのではないだろうか。そして私たちは、間違っていると分かりつつも、周りの人が使っているから、使用しているということはないだろうか。

代表的なものとしては、「全然」の「副詞の呼応」がある。通常ならば、「全然」は「～でない」の打ち消し表現を伴うのが一般的である。ところが、私を含めた若者を中心に、「全然おいしい」、「全然OK」などの打ち消し表現を伴わない使い方が最近の流行である。副詞の呼応は、文中である語を用いると、それに応じてあとのほうで決まった語や表現が必要になるものであり、それに従わない表現は文法的に間違っている。

こういった呼応がきちんとなされている場合、話を聞いていたり文章を読んでいたりして「全然」という言葉が出てきたら、否定表現が続くのだなという心の準備ができる。しかし、それが乱れてしまった現在、「全然」が出てきても結論の予想ができなくなり、不便になってしまった。

言葉は流動的で、絶えず日々変化していく生き物みたいな存在であるから、このような誤用が起こることは仕方がないことである。とは言え、私たちは本来の正しい使い方をしたほうがよい。なぜなら、誤用が広まって不便になるという方向は好ましいことではないからである。

しかし、逆に誤用によって便利になってしまった言葉もある。それは、「ら抜き言葉」である。

「ら抜き言葉」を用いることによって、可能と尊敬の識別が明確にかつ容易にできるようになった。例えば、「明日、ここに来られる」という文では可能か尊敬の意味の識別が文の主語、または文脈で判断するしかなかった。しかし、「ら抜き表現」が広まるにしたがって、「明日ここに来られる」は尊敬の意味に、「ら抜き言葉」を用いた「明日、ここに来れる」は可能の意味へと分けて使用されるようになって来つつある。その結果、容易に可能か尊敬かの意味の識別ができるようになった。

このように、「ら抜き言葉」という現象は、「ら」を抜くことに本質があるのではなく、可能の意味をそれまで同じように表現されていた尊敬や受身の意味と区別しようとするところに本質があるように思われる。単に短くしようとするのであれば、尊敬や受身の意味のときにも「ら」を抜くはずだからである。

「読める」という表現は、今日ではすっかり定着しており、「私はこの字が読まれる」のように言っては、かえって変である。現在では、こういった便利な面が受け入れられて、比較的若い世代の人々を中心に「ら抜き言葉」を使っている。私も「ら抜き言葉」によって、便利になったことは認める。

しかし、私はそれを使うことをあまり支持していない。なぜなら、「ら抜き言葉」が現在のところ認められておらず、それに、多くの人がそれを支持して市民権を得ていても、文法的に間違っているのは、間違っているからだ。だから、「ら抜き言葉」に限った事ではないが、間違った言葉は使わないほうがよいと思う。

流行のように間違った日本語を使ってそれが浸透してしまっては、今まで正しいとされてきた日本語にとってたまったものではない。正しいとされ使用されてきたのには、何らかの歴史やその背景があったからに違いないだろうから。そして、正しい日本語を守るために明らかに間違った言葉使いを聞いたら、それをすぐに注意すべきであろうし、親も学校の先生たちも積極的にもっと子供たちにそういったことに気を配るべきである。

そして、最大のポイントは、私たちができる限り正しい日本語を学び、使用することである。このことによって、将来の自分の子供に正しい日本語を教えるができるのではないのだろうか。そうした姿勢が、正しいとされてきた日本語の文化を守ることにつながっていくのではないだろうか。

（前田晃佑）

どうなる？西高祭の群団編成

来年度1年生は9クラス

11月7日、県教育委員会は来年度の県立学校の募集人員を発表し、本校は1クラス増の9クラスの募集となった。

この1クラス増によってスタディルームなどの教室をどうするか、スタディルーム編成をどうするかなど様々な問題が生じ、対応が必要となる。

そういった中で、一番の問題は西高祭の群団編成であろう。各学年8クラス編成の現在では、各学年1クラスずつの8群団を何も問題なく編成できたが、来年は1年生だけ9クラスで合計25クラスだ。5×5以外には、均等なクラス数の群団編成はできないが、今後、様々な検討が必要とされるだろう。

ただ、これまでにもこういったクラス数の不均衡がなかったわけではない。87年～95年までの9年間、クラス数は26、29、31、31、29、28、27、26、25と推移した。この中には1学年が11クラスだった時代すらある。

こういった期間、西高祭の群団はどうなっていたのだろうか。実はほとんどの年、8群団編成で3クラス編成の群団と4クラス編成の群団が混在していた。ということは、1つの群団に3年生が2クラス所属するというケースもあった。93年には各学年9クラスずつだったにもかかわらず、8群団編成だった。

しかし、この期間で唯一9群団編成になった年がある。それは89年のことで、1年10クラス、2年11クラス、3年10クラスを9群団に編成した。その経緯を、89年7月20日付けの西高新聞第69号が取り上げている（**写真**）。3年生の室長と生徒会で、8群団、10群団、5群団制の案で協議が続けられ、最終的に9群団に落ち着いたという。

こういった不均衡が今後何年続くのかは不明だが、毎年毎年臨機応変な対応を迫られることになる。

HE ICHINOMIYANISHIKOH SHIMBUN
平成元年7月20日（木曜日）
一宮西高新聞
悩んだ末の変化だが
西高初の 九群団・体育祭

戸松君 インターハイ全国3位入賞

「なぜか僕には自信があった」

8月、岩手県で行われたインターハイ陸上競技5000m競歩で、3年生の戸松弘成君が堂々第3位に入った。戸松君に感想を書いてもらった。

昨年、2年生で出場した東海総体の5000m競歩で、僕はゴールすることができなかった。インターハイ出場まであと数mというところで失格。周りが見えていなかった。このときの悔しさは一生忘れられないと思う。

それからの1年はあっという間に過ぎ、最後の総体を迎えた。全国の決勝に出るまでは確実に勝つことだけを考え、ついにインターハイ決勝のスタートラインに立つことができた。周りは自分よりもいいタイムをもっている人ばかりだったが、なぜか僕には自信があり、落ち着いていた。

レース結果は3位で、目標だった入賞を果たした。「ラストスパートで離されないようにすること」が、僕にとっての今後の課題となった。

最後に、部活で頑張っているみなさんに伝えたい。

経験を大事にしてください。いろいろなことを経験することで強くなります。失敗にも成功にも理由があると思うので、自分でよく考えてみてください。もう一つ。勝てると思うと負けます。絶対勝つという強い気持ちが大切です。

（戸松弘成）

表彰式の戸松君（右）

後期生徒会役員

伊藤さん　木俣さん　山下君　菱川君

紹介記事は第2面に。

人との付き合いって

人との付き合いって、友情関係って、とっても難しいものだと思う。相手のことや周りの人を気にしながらコミュニケーションをとればストレスがたまるし、かといって逆に我が道を行こうと自分勝手な行動をとれば、周りからの不満や不評が飛び交う。私の理想の姿は、「相手の話を聞き、相手を思いながらも、自分の意思はちゃんと伝える事」だけど、やっぱりそれは難しい。

▼中学時代に人との付き合いの難しさを痛感した出来事があった。それは、中3の修学旅行である。私は個性豊かな4人と班を組んだ。1人は東京から来て2週間もたってない転校生。1人はある競技が強いスポーツマン。1人は常に単独行動をする内気な少女。だからだろうか、この班には、まとまりがなかった。そして遂に、班内でもめ事が起きた。ここで、私は反省をしなければいけない。当時班長だった私は、メンバーの話や意見をよく聞いて、皆の要望に応えようとしていた。けれど、それだけではいけないのだ。自分の意見を持ち、相手に聞いてもらうことも大切だった。結果、私は周りの人を気にしすぎて何もできず、揉め事が起こってしまった。▼そして、今。西高生活では、極めて良好な人間関係を築けている。クラスメートは、私に親しくしてくれ、困ったときには手を差しのべてくれる。他のクラスの友人も、忘れ物を借りに行けば嫌な顔せず貸してくれるし、1人のときは声をかけてくれる。演劇部では、何でも話せる親しい友人や先輩ができ、私のくだらないトークを聞いてくれる。また、西高祭では優しくて面白い先輩方と交流を持てたし、委員会では新しい友達や先生とも仲良くなれた。私は、いろんな人に支えてもらいながら毎日楽しく過ごしている現状から、かなりの幸せ者だと思う。▼そんな今だからこそ、改めて考えなくてはならない。それは『人との付き合い方』だ。今のこのよい人間関係をどのようにすれば続けられるのだろう。やっぱり人との付き合いとか、友情とかとっても難しいと思ってしまう。だけど、他人の意見を聞くことや、自分の意志を聞いてもらうことといった、私が中学時代で身をもって体験し学んだこと、それが実行できたら、素晴らしい人間関係が築けるような気がする。

（水野真理子）

教科書・補助教材・一般書籍・雑誌
文具・事務用品・家具・教材
松清本店
稲沢市高御堂1-2-1
電話 0587-32-0048
FAX 0587-21-7419

すくーるフォト♪
スクールあるばむ
BBクリームってブタブタクリームってコト？
稲沢市祖父江町
石田写真館
0587-97-0059

計量器・OA機器
事務・学用品・書籍
紙徳商店
一宮市萩原町萩原
TEL 68-0034
69-4121
FAX 69-2466

体育服装
クラスTシャツの御注文は
株式会社 水野繊維
http://msmizuno.jp
〒454-0004
名古屋市中川区西日置町二丁目15-17
TEL（052）331-3077
FAX（052）331-3127
E-mail info@msmizuno.jp

購買で
飲み物を販売しています
自販機の利用もよろしく
笑顔のそばに
MEGMILK
メグミルク君島
46-3362

第46回西高祭　8つの星が輝いた！

あっという間に終わってしまった西高祭。準備期間から度重なる雨と熱い日差し、最後の最後に台風によって破壊されたマスコットなど、歴史に残る波瀾万丈の西高祭でした。また、「マスコットで使っているキャラクターの商品を販売してはいけない」という突然の指示で泣いた物品クラスもありました。それでも、今年も大成功を収めることができたのは、各群団が群団の壁を越えて協力し合ったからだと思います。

文化祭　おなかも心も満腹に

テーマ曲「Bewitch」の発表から始まった文化祭でまず行われたのは、弁論大会でした。さすがは予選を勝ち上がってきた弁士達。どのスピーチもとても素晴らしいものでした。その中でも最優秀だったのは3の8遠藤優輝さんの「資源大国日本」でした。（下の「スピーチ」に掲載）

ちなみにこの日からマスコットの修復が始まりました。修復作業には、違う群団の生徒や、マスコットの係では無い人達もいました。まさに学校全体が一つになっている瞬間でした。

本格的な学校祭が始まる文化祭2日目。今年も面白いクラス企画が目白押しでした。今年のバラエティは元々あるゲームや番組を精密に再現しているところが多く、その完成度にビックリしました。その中で、祭をイメージした2の3の「祭屋」と2つのコースがあり、どちらも楽しめて3の8の「どりい夢きゃっちゃ～～～んす」が同点優勝でした。

この日から上演された劇はどのクラスも生徒が作っているとは思えないほどハイクォリティでした。2回目の上演では、1回目には無かったシーンを加えるなどの工夫もたくさん見られました。3の1の「一発大逆転」が、劇中のセット移動の時間なども、面白い豆知識で観客の心をつかみ優勝に輝きました。

ゼミは、観て学ぶだけでなく、実際にやってみたり、ガイドさんが教えてくれたりと、より深く理解することのできるよう各クラス色々な工夫を凝らしてお客さんを楽しませていました。ゼミで優勝したのは、2の2の「絵本の扉」でした。

販売初日から大盛況だった食品からは、美味しいという声をたくさん聞きました。多くのお客さんが買っているようで、実際に3の2の「ナンやねん!!」のピザナンを食べてみました。本当にとても美味しくて、同じ高校生が作っているとは思えませんでした。食品では、いろいろな本格韓国料理を提供した3の5の「韓悟空」が優勝しました。

文化祭最終日には、物品で大バーゲンが行われました。校内を大声でまわり、客寄せをしている姿が目に入りました。中には、「全品10円だよ～」と言っているクラスもあり、どのクラスも激安でほとんど完売していました。この価格競争?を勝ち抜き、優勝に輝いたのは3の3の「いーわHOLLIGE・VANGUARD」でした。

総合1位だったのは3年5組でした。

ちなみに去年に引き続き、文化祭の2日目、3日目に新聞部は号外を発行いたしました。読んで頂けましたか?今回は生徒用とは別に、とても大きな掲示用も作りました。大変でしたが、「西高新聞に掲載されました!」と書いて掲示してあるクラス企画もあり、作ってよかったなと思いました。西高祭の終わりには、校長先生からも褒めて頂き、とても嬉しく、励みになりました。また来年も号外を発行しようと思うので、ぜひ読んでくださいね。

3の1の劇『一発逆転』

友人と食べるオムライスはおいしい

体育祭　西高パワー大爆発！

文化祭が終了した翌日、延期された体育祭が行われました。修復されたマスコットも姿を見せ、例年どおりとても熱い体育祭になりました。

初めに行われた学年別リレーでは、最初の競技ながらとても大きな声援が聞こえてきました。その応援に応えるように走者もとても頑張り、会場を温めてくれました。

午前中の終わりには、各群団のリーダーが応援合戦をしました。ぴったり揃った踊りに大きな声、それぞれのマスコットをイメージした衣装、それに合わせたドラムや太鼓、どれも皆素晴らしく生徒も先生も、来た人皆が見入っていました。リーダー優勝は第Ⅶ軍団、衣装優勝は第Ⅷ軍団でした。

そして最後には、最も会場が沸いた群団別対抗リレーが行われました。今までで最も大きい声援の中、どの群団の走者もとても素晴らしい走りを見せてくれました。

閉会式で発表された競技は第Ⅲ軍団が優勝しました。そしてマスコットの順位は、第Ⅶ群団のアラレちゃんでした。このマスコットは、台風で最も大きな被害を受けたマスコットでした。それなのに優勝したのは、とてもすごいと思いました。でも、優勝できたのは決して第Ⅶ軍団の力だけではなく、皆が協力し合ったからだと思いました。

総合順位1位だったのは第Ⅷ群団でした。（中道良太）

リーダーとマスコットで優勝した第Ⅶ軍団

スピーチ　3の8　遠藤優輝くん

資源大国日本

「資源大国日本」というタイトルを聞いて、みなさんは「え?」と思ったんじゃないでしょうか。実際は「日本は資源のない国」とよく言われています。現代の社会を成り立たせているのは、やはり間違いなく石油の力です。文明は石油に頼っていると言っても過言ではないでしょう。

たしかに、日本は石油や石炭といった化石燃料のほぼ100％を輸入に頼っています。すると、日本のエネルギー資源は外国からしか得られないように思われます。

しかし、エネルギー資源というのは、なにも石油や石炭だけをさしている訳ではありません。わたしたちの身の回りは資源であふれています。さんさんとふりそそぐ太陽光、さわやかにふきぬける風、流れる水と書いて流水、地面の熱と書いて地熱、海をうねる波など自然現象からもエネルギーを取り出すことが可能です。この自然のエネルギーは最近は「再生可能エネルギー」という呼び名で耳にすることが多くなってきています。そして、この再生可能エネルギーこそ日本が資源大国となるカギをにぎっているのです。

なぜなら、日本の地形、気候、風土は、世界的にみてもたいへん変化に富み、多種多様で豊かな自然があふれているからです。特に、地球温暖化が世界的な環境問題として取り上げられる現在、変化に富む地形や風土は大きな可能性を秘めています。日本は再生可能エネルギーの豊富な国と言えるのですが、日本の再生可能エネルギーの利用による発電量は、たったの3％というのが現在の状況です。まだまだ、発電効率が悪く実用化に至っていないのです。

しかし、再生可能エネルギーを利用して発電しているという地域も存在します。その例を紹介して、日本の将来を考えてみたいと思います。

大分県では、20年ほど前まで発電に使用されていた水車を、2004年に再生し、利用しています。このような小規模な水力を利用した発電を小水力発電といい、大分県の水車による小水力発電は、観光施設や地域の電気をまかない、余った電力は九州電力に売って、経済的にも成り立っています。

小水力発電は、ダムを利用した大規模な水力発電とは異なり、簡単な工事で発電できるので、小水力発電の開発が可能な場所は無限にあると言われています。また、太陽光や風力と比べて発電量が安定しているため発電効率が良いのも特徴です。さらに、日本の年平均降水量は、世界平均の2倍の1700ミリ以上あり、日本の川の流れの勢いは、ヨーロッパやアメリカ大陸とは比較にならないほど急なので、日本は小水力発電に非常に適した自然条件をもっていると言えます。

しかし、問題点もあります。問題点は二つです。一つ目の問題は経済的な問題です。これまでに小水力発電の活動が行われてこなかった理由の一つは経済的な問題があったからです。小水力発電施設のほとんどは、設置場所の特徴を見極め、オーダーメイドのものとなるので費用がかかってしまうのです。しかし、政府の財政援助が次第に整えられてきており、財政的問題は解決の方向にむかっていると思われます。

もう一つの問題は地域ごとの自然条件の違いです。水の力を利用する場合、当然、水が流れていなければ話になりません。また、水が利用できたとしても、発電効率は地域ごとに異なるため、効果が上がらない地域がある可能性があります。しかし、この問題も日本であれば克服できそうです。自然条件の違いの問題を解消するには、地域ごとに一番適した方法をとればよいのです。つまり、小水力発電が利用できないのなら他の再生可能エネルギーを利用するということです。

先に述べたように日本の地形はとても豊かです。森林が国土に占める割合は67％と、フィンランドやスウェーデンと並ぶ世界トップクラスで、噴火活動をしている火山は世界の10％が日本に集中しており、海岸線の長さは世界6位です。それぞれの地域が、それぞれの自然条件を生かし、すでにある技術と組み合わせて、その地域だけのオリジナルな発電方法が誕生するかもしれません。

それを想像するだけでワクワクドキドキしませんか?実現に向けて大切なことは一人一人がしっかりと意識を持つことだと思います。地域ごとに発電のしかたが異なる可能性があるわけですから、国ではなく地域が主体となって積極的に活動していく必要があります。そして地域の構成員である私たちが協力する姿勢でいれば日本の将来はより一層明るいものになっていくはずです。それぞれの地域がオリジナルの発電方法をしっかりとうち立て、近い将来みなさんが日本地図をひろげたときに、日本中が発電の地図記号でうめつくされていたら、そのときはじめて、日本は資源大国と呼ばれることでしょう。

そして、日本地図だけでなく世界地図も再生可能エネルギー利用の発電の地図記号でうめつくされるよう、日本が世界をリードしていける未来に、次の世代を担う私たちがしていきましょう。（弁論大会最優秀賞）

MY SCHOOL DAYS　平山実佳先生

私は名古屋市の天白区で生まれ育ちました。天白区といっても、名東区に程近いところです。小学校も中学校も決められた学校に通うよりも、隣の学校に通いたいといつも思うほど友達よりも通学に時間がかかりました。中学校までは毎日片道55分、さらに最後は名古屋で一番きついといわれている急坂をのぼりました。

高校は市内の南部に位置する市立高校に入学しました。高校までは片道約9㎞。入学当初は、憧れの定期券を持ちたいために電車通学のつもりでした。しかし、同じ中学校の友達が自転車で通うというので、それなら私もと思い自転車で一度通ってみました。朝の通勤ラッシュで背広のおじさんたちに押しつぶされる窮屈さと河原を走る気持ちのよいサイクリング。高校生の私は、憧れの定期券をあきらめ自転車で通うことにしました。3年間、どんな天候の日も自転車をこぎ続けました。また、休日の部活動の日は、トレーニング代わりに走って学校に行くこともありました。

自転車での通学時間は3年間で約10分短縮されました。理由はというと、いろんなことが考えられますが…。丈夫な足腰が出来上がっていきました。3年間、往復約18㎞こぎ続ければ通学の思い出もたくさんできました。通学途中、道端で倒れていたおばあさんを助け、学校に遅刻してしまったことがありました。先生に理由を話してもなかなか信じてもらえず、その後、遅刻をすると「また、おばあさん倒れとったか?」と卒業するまで言われ続けた覚えがあります。

学校生活は、とにかく一日一日毎日が楽しくてたまりませんでした。学校にいる時間にエネルギーを全て使い果たして、家に帰ったら寝るという毎日の繰り返しでした。毎日楽しく学校生活を送れた理由を今考えてみると、一番は友達の存在がかなり大きかったと感じます。球技大会、体育祭、文化祭全てにおいて本気の真っ向勝負。悔し泣き、うれし泣き本当に仲間と色々な気持ちを共有し合いました。

また、1、2年生の頃は昼放課も真っ向勝負。4限終了のチャイムと同時に廊下へ飛び出し、サッカーをするためコートを取るのに必死でした。コート奪取のために戦う相手は野球部。私たちは一緒に遊ぶ仲間と時間割を見て誰が狙うのが一番いいのか作戦まで立てていました。チャイムが鳴ればいざ決戦です。コートが取れないと大ブーイング。あの頃はみんな必死でした。昼放課の30分は10人ぐらいで〝なでしこJAPAN〟になりきります。制服なんて関係なし。今考えると女子高生とは思えないような激しいぶつかり合いをしていました。

雪が降れば、みんなは寒いとストーブの前で温まっている中、私たちは朝から大興奮でした。「おはよう」と他の子と話していれば、背後から制服の中に雪が入ってきます。昼放課はもちろん雪合戦。戦いが始まると、各自万全の防備で、顔より上はだめというルール以外何でもありである。雪は固められると予想以上に痛いものです。この戦い、本当は私にとって恐怖心たっぷりのとても怖いものでした。

しかし、負けず嫌いという性格が働き必死に戦っていた覚えがあります。まだまだ友達との思い出は尽きません。高校時代ともに笑いあった大切な仲間は、今会っても自分が高校生であるかのような気持ちにならせてくれます。悩んでいる時はお互い相談し合い、一生大切にしていきたい心から信頼しあえるたくさんの仲間を高校時代に手に入れることができました。

もう一つ、私が高校時代手に入れた大切なものは〝夢〟です。今、私が体育の教員として働けているのも、高校時代出会った体育の先生のおかげです。その体育の先生はとてもいかつく怖く恐れられている先生でした。いたずら大好き、好奇心たっぷりの私は、そんな先生を困らせ、すごく手がやける生徒だったと卒業してから先生に会うたびに言われます。先生からは、何かと注意を受けました。体育の授業は、西高と同じように様々な選択をするのですが、どういう訳か3年間全てにおいて私はその先生が担当でした。未熟な私は、怒られてばかりでその先生のことを面倒くさい人だと思っていました。

しかし、いつしかその先生が一生懸命私を成長させようと指導してくださっていることに気づきました。日常生活ではよく怒られていましたが、体育の授業の中ではよく褒めてくださいました。自分の運動能力をここまで認めてくださる先生に初めて出会い、自分に自信を持つことができました。今やこの先生は、何かあるたびに連絡をし、相談に乗ってくださる大先輩です。

私にとって、高校時代は思い出の尽きない、また自分という人間を確立する大切な3年間でした。「毎日の中で、一番むだに過ごされた日は、笑わなかった日である」というシャンフォールの言葉がありますが、まさにその通りだと私は高校時代を振り返ると思います。毎日笑って過ごすことができたのは仲間のおかげです。〝ナカマ〟一生大切にしていきたい宝物です。

学校祭で級友と（右端）

友人たちと旅行に

昼放課「命」のWonderfulな日々

あきらめない強さを　教育講演会に金メダリストも

じゃんけん大会で盛り上がった教育講演会

10月28日に女子レスリングの栄和人監督と吉田沙保里選手が来校し、教育講演会が行われた。講演では2人の体験談から、試練とはどういうものか、挫折からどう復活したのか、などが話された。また「自分にはできないとあきらめてはいけない」など、私たちに向けて熱いメッセージが送られた。それを聞いて、私は「挫けても一生懸命がんばれば結果はついてくるのだ」と思った。

質疑応答では、栄監督や吉田選手に試合への臨み方などたくさんの質問がされた。2人はそれらの質問に笑いを混ぜながらも真剣に答えてくれた。またアルソック体操をやってほしいという要望にも応じて踊ってくれた。私はとても優しくて気さくな人だと思った。また後から聞くとそれは、こういう場では初めてだったという。それを聞いてとても嬉しかった。

講演会の最後はじゃんけん大会だった。そこでは吉田選手とのじゃんけんに勝つと彼女のサインが入った色紙やファイルがもらえた。全員がじゃんけんに参加し、この講演会で一番盛り上がった。色紙やファイルをもらった生徒はとても喜んでいた。このじゃんけん大会が終わった後には吉田選手がオリンピックで手に入れた金メダルを見せてもらった。重圧に負けずに勝ち取った金メダルはとても輝いていた。

講演会は私が期待していた以上のものだった。こんなに自分を引き込んでくれるお話をまた来年も聞きたいと思った。（西部愛里紗）

西高の木⑳　カキノキ

カキノキ科の落葉樹。初夏に四角張った黄白色の花をつけ、秋には橙色の果実を実らせる。春の若葉は柔らかで美しく、柿紅葉も色覚検査の図を思わせて味がある。

本校に柿の木があるの?と思われるかも知れないが、2本ある。とはいえ、○○部の諸君以外はご存じの方は少なかろう。あまり多くの実をつけたりしないようなので目立たないが、興味ある方はグラウンド周りを探してみよう。

甘柿か渋柿かは知らない。誰か体を張って確かめてみてはどうか。いや、これまでに確かめた人が誰かきっといたに違いない。

後期生徒会役員決まる

後期生徒会メンバーが決まり、始動しました。今回は、4人のうち3人が議員選出となりました。議員選出でもなかなか決めることができず、来期の生徒会に少し不安も感じる結果となりました。さて、今回も生徒会のみなさんにアンケートに答えてもらいました。

①自己紹介　②今、一番行きたい場所　③私の小さな夢　④座右の銘　⑤抱負

会長　伊藤　愛梨

①山下智久だいすきッ。赤ドットは、ミニーちゃんとわたしの象徴です?　②TDL・TDS・大阪　③ミッキーと2ショットの写メを撮ること　④明日やろうはバカやろう　⑤立派な生徒会長に近づけるように努力します!青春しましょう♪わは↑

副会長　山下　将生

①後期の副会長をやらしていただくことになった、1－4の山下将生です。趣味は昼寝です。②温泉（温泉でゆっくりしたいから）　③昼寝すること　④今を生きる　⑤半年間、できるだけがんばります!!

書記　木俣　琴

①最近アホ毛がひどいとみんなから言われる木俣琴です。②イギリス　③かつぜつがいいと言われること　④You'll never walk alone　⑤がんばります。

会計　菱川　貴之

①第1印象が「恐い」とか「ヤンキー」とか言われます。でもそんなつもりはありません（汗　②ニュージーランドとカナダ!（大自然を見たいだけ）　③ロスチャイルドをぶっつぶす。④まず自分のために行動し、それから他人のために行動する。⑤環境を良くするためこつこつ働きたいと思います。

編集後記

▼初めて記事を書きました。文字数や内容など、文章を書く難しさを知りました。（あ）

▼奇跡の一本松。11月26日の時点で既に生体反応がないことが判明。泣ける……（け）

▼新聞を全然読まないので、どう書くか苦労しました。明日から読もうかな～（ま）

▼今回は前回よりも少し大変な仕事でした。頑張ったので、ぜひ読んでくださいね。（り）

▼自分は2年生なので、次の号の記事執筆が最後の仕事になります。頑張ります。（こ）

▼バレーに野球に盛り上がった秋が終わった。次は、こたつにみかんの冬だ♡（あ）

『西高新聞』を一緒に作りませんか!特に、1年生を大歓迎。兼部でもOK。